



園庭のもみじが赤く色づき、落ち葉をたくさん集めてもみじ狩りを楽しむ子どもたちの姿が見られています。

先月はうみ組、にじ組が一緒にお芋ほりに行くなど、この時期ならではのイベントを楽しむことができました。

お芋ほり当日はお天気にもめぐまれて、遠足日和❖

電車に乗って、永山駅から歩いて畑を目指しました。

去年は年長さんに手をひいてもらっていた子どもたちですが、今年は自分たちが年長さんとして、年中さんをリードしなければなりません。

歩道のない道を歩く時には、内側を年中さんにしてあげたり、階段が見えると「もうすぐ階段があるから、気をつけてね」と声をかけるなど、大人に言われなくても年下の友だちを優しく気遣う姿に、成長を感じました。

畑に到着すると、たちまちテンションMAX！

お芋ほりはどこへやら、虫探しや草むらではしゃぎまわるにじ組さんなのでした笑
そんなこんなでしっかりとお芋ほりも楽しみつつ、メもやはり虫探し&草むらではしゃぎまわりで、大満足な一日となりました。

子ども会に向けて、何の劇をやりたいかを聞いたところ、5つのお話が候補にあがり、多数決の結果、桃太郎と七匹のこやぎが半々に。どうしようかと子どもたちと話し合った結果両方のお話をコラボさせて「桃太郎と七匹のこやぎ」にしよう！ということになりました。

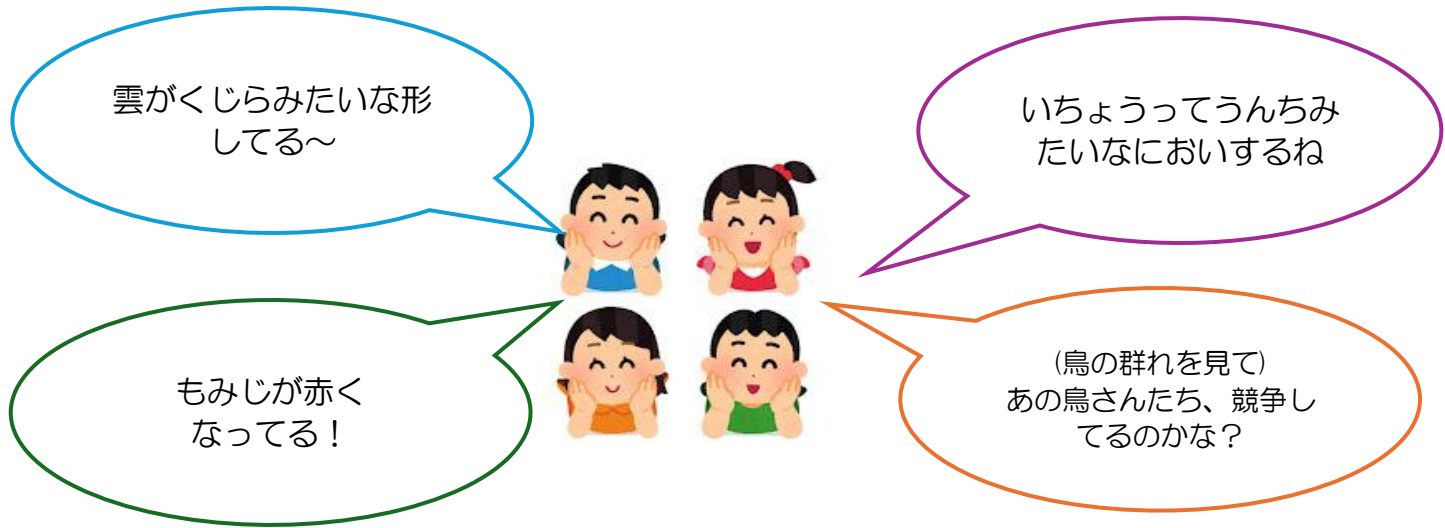
「桃太郎がやぎをお供にして鬼退治に行く」「お姫様じゃなくてやぎを助けに行くことにする」などなど、にじ組らしい自由なアイデアがたくさん飛び出し話し合いは盛り上がっていました。形式にとらわれない、子どもたちのアイデアが詰まった新しい桃太郎と七匹のこやぎ、どうぞお楽しみに☺

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿「豊かな感性と表現」について



10の姿における「豊かな感性と表現」とは、季節の変化や友だちとの関わり、遊びの中で感じた気持ちを大切にして、それを言葉や絵、身体の動きなどで表す力を育てることを指しています。

子ども会などはまさしく、音楽に心が動いたり、友だちと気持ちを合わせる嬉しさを感じたりと、子どもたちの中にさまざまな「感じる力」が育っていく代表的な行事であるといえますが、日常の中でもそのきっかけや出来事はたくさんあります。



こういった子どもたちの小さな発見や経験からごっこ遊びに発展したり、不思議と感じたことを調べてみたり、絵に描いてみたり、作品にしてみたり…と日常の何気ない場面にも豊かな感性と表現の育ちが表れています。

大人はその小さな気づきや何気ない一言をしっかりと受け止めて、感じたことを共有して表現の楽しさやおもしろさにつなげたり、子ども自身がそれぞれに表現する楽しさを大切にするなどして、子どもたちの育ちのお手伝いをしています。

12月の子ども会では、役になりきって演じたり、友だちと一緒に歌をうたったり、子どもたちなりの「表現」をたくさんご覧いただけるかと思います。
子どもたちの頑張りや成長を、一緒に感じていただけたら嬉しいです。